第17回　日本慢性期医療学会　シンポジウム⑧
平成21年6月26日

# 「療養病床における薬剤使用に関するアンケート」報告

日本慢性期医療協会
薬剤委員会

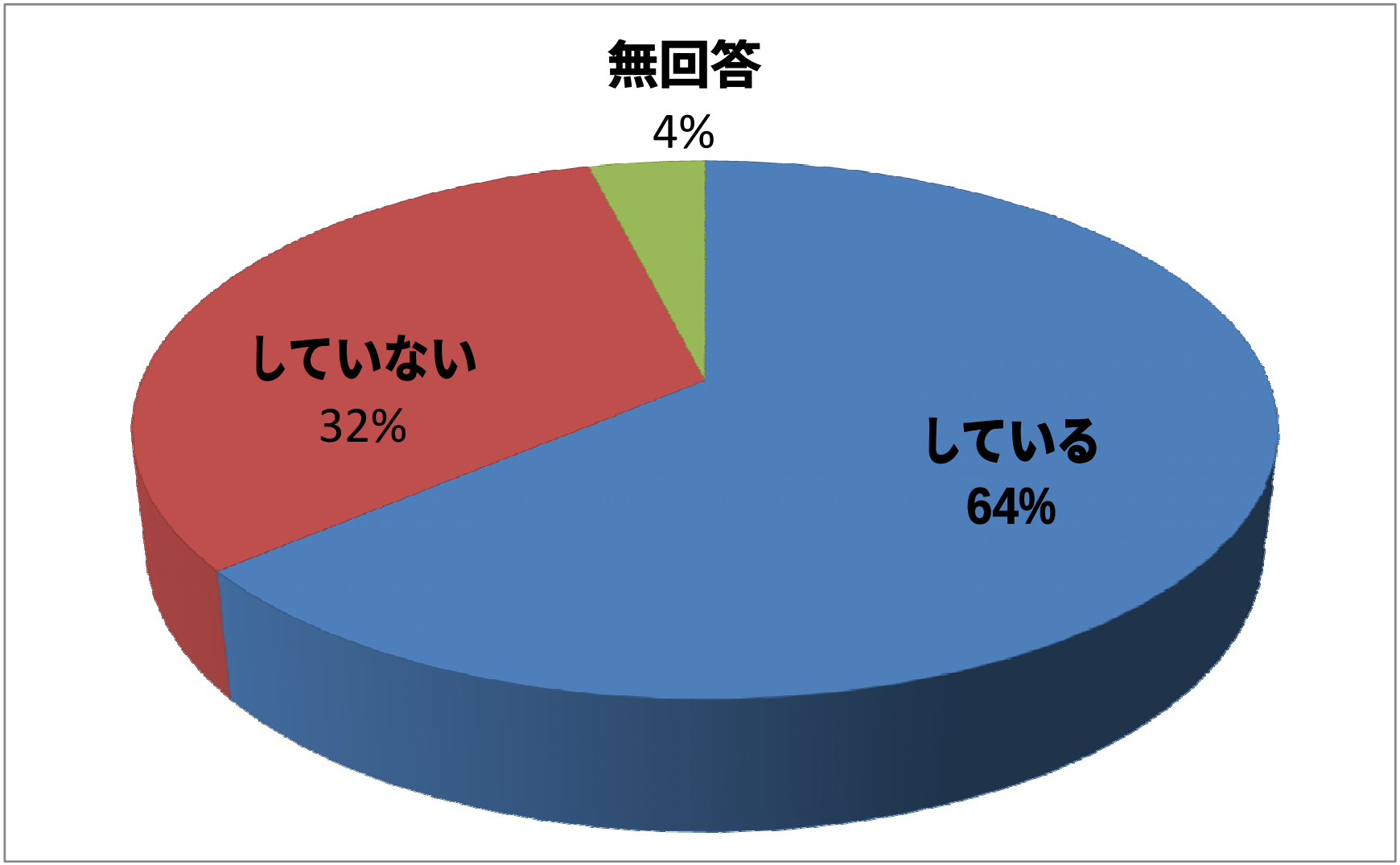
# 【アンケート調査の概要】

| | | |
|---|---|---|
| 調査実施日 | 平成21年1月 | |
| 調査対象 | 会員施設 818施設 | |
| 調査方法 | アンケート調査用紙を郵送<br>回答はファクシミリで回収 | |
| 回答施設数 | 182病院 | |
| 施設の概要 | 平均病床数 | 208.7床 |
| | 医療療養 | 36.7% |
| | 介護療養 | 30.2% |
| | 一般病床 | 17.5% |
| | 回復期リハ病棟 | 7.7% |
| 薬剤師の配置 | 常　勤　100床あたり | 1.7人 |
| | 非常勤　〃 | 0.2人 |

# 【アンケート項目の概要】

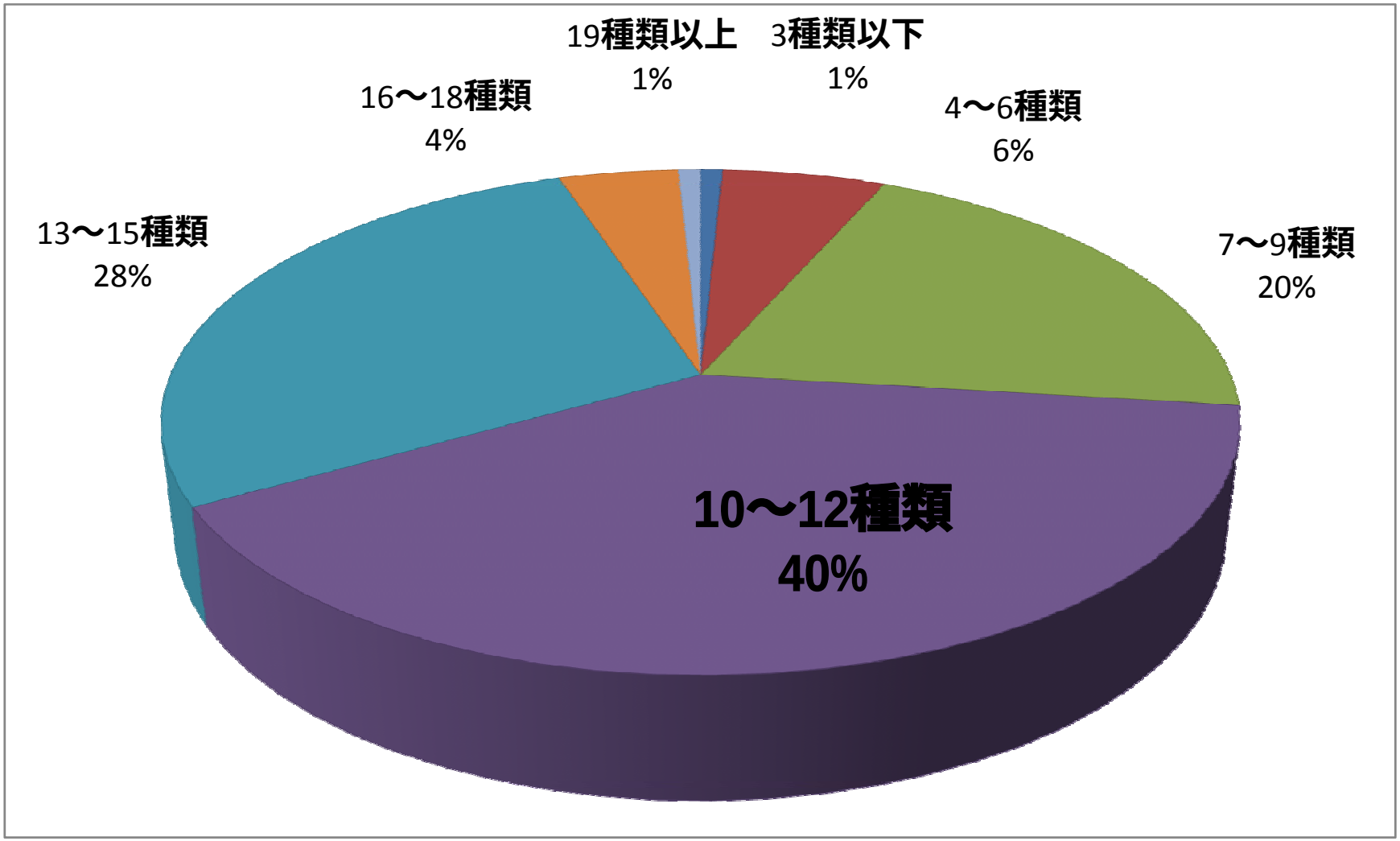
1. ポリファーマシーの回避について
2. ジェネリック薬の使用について
3. 高齢者の服薬支援について
4. 高齢者薬物療法の適正化について
5. 緩和ケアに係わる医薬品の安全使用について

# 1-①　服用薬剤を最小限にするための努力をしていますか

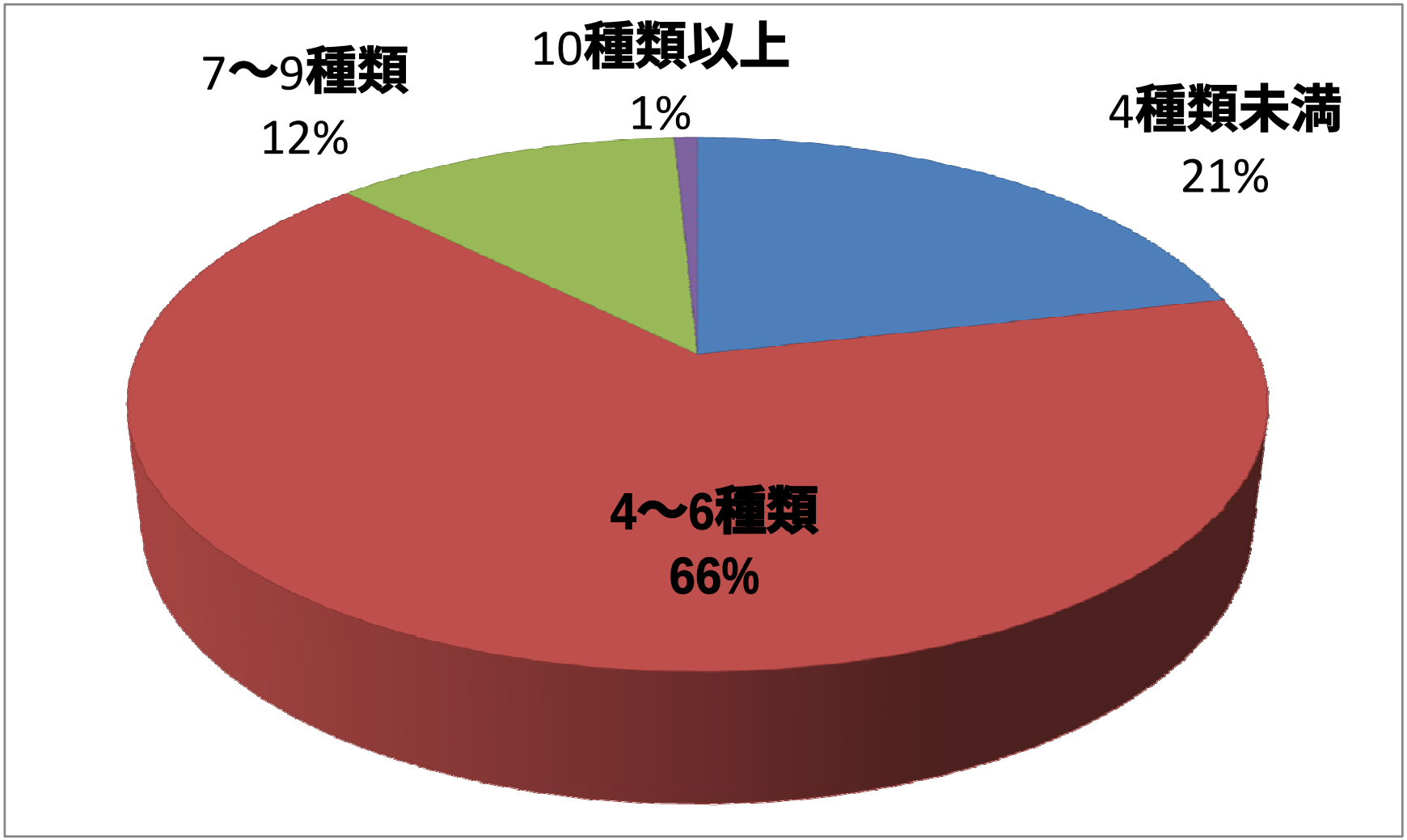


# 1－② 入院定期内服薬で、最も多くの種類を服用している方は、何種類の薬剤を服用していますか

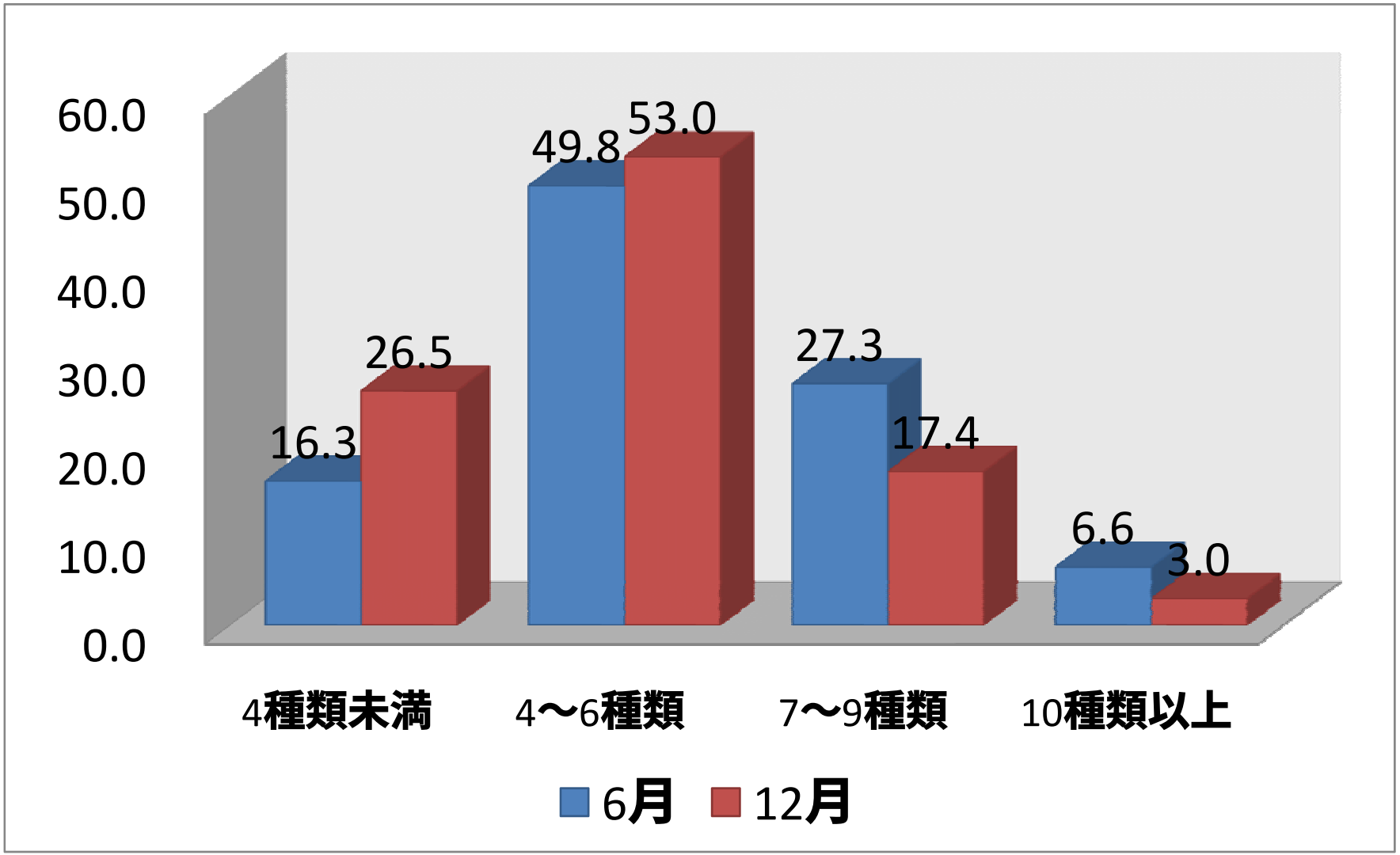
（平成20年12月現在）



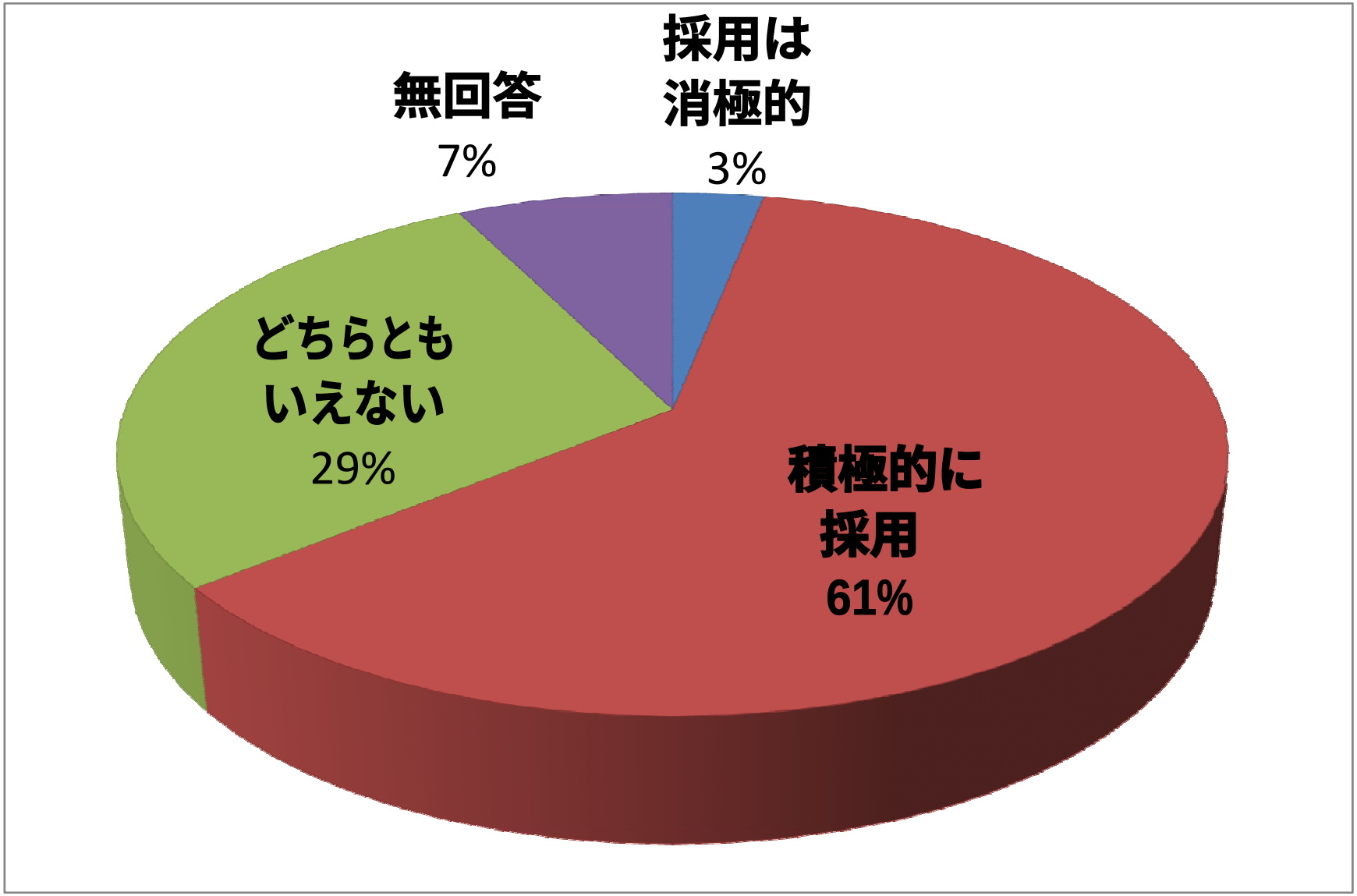
# 1-③　入院定期内服薬で、服用薬剤の種類の平均数
（平成20年12月現在）



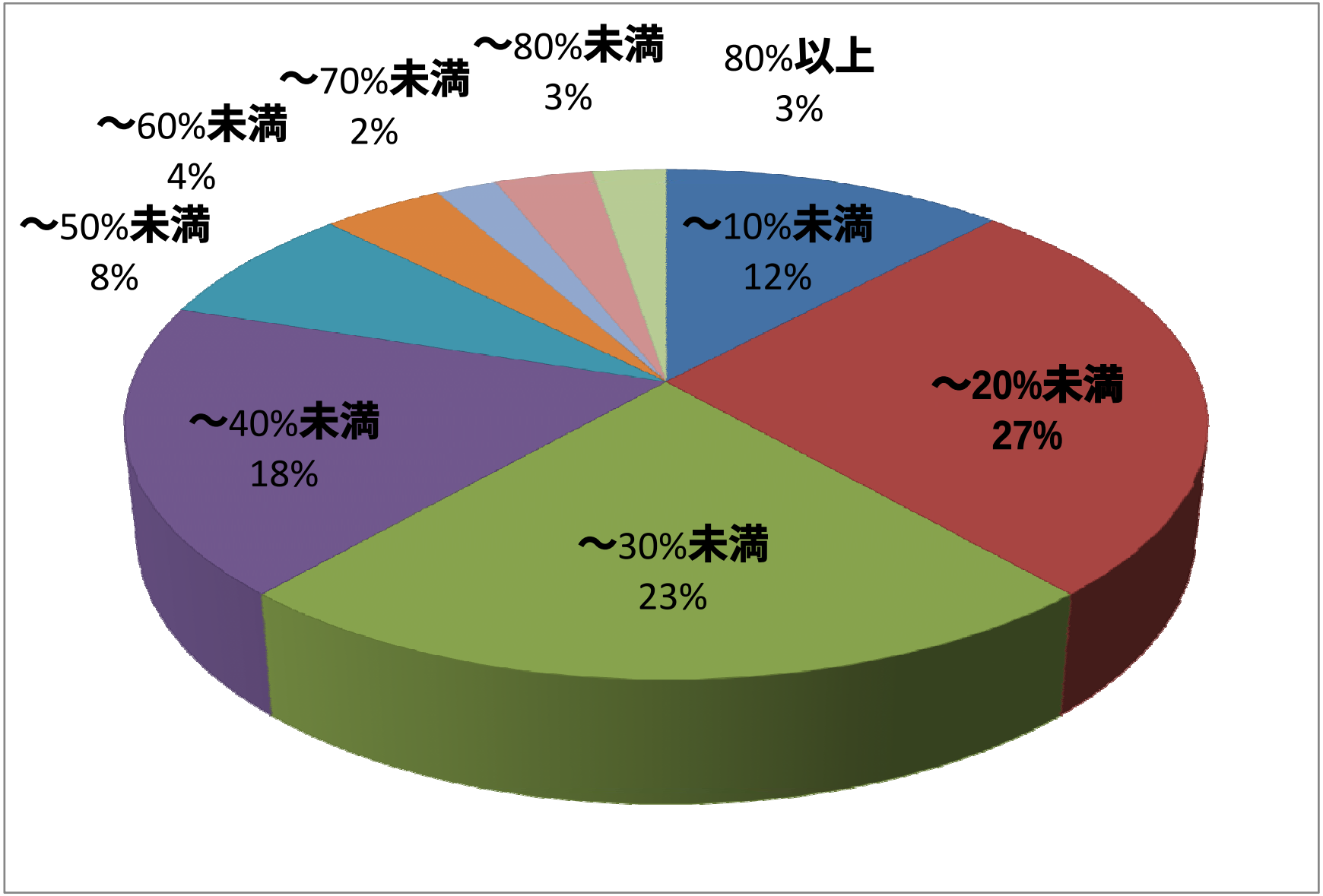
# 1-④　入院6ヵ月後の、内服薬種類数の推移



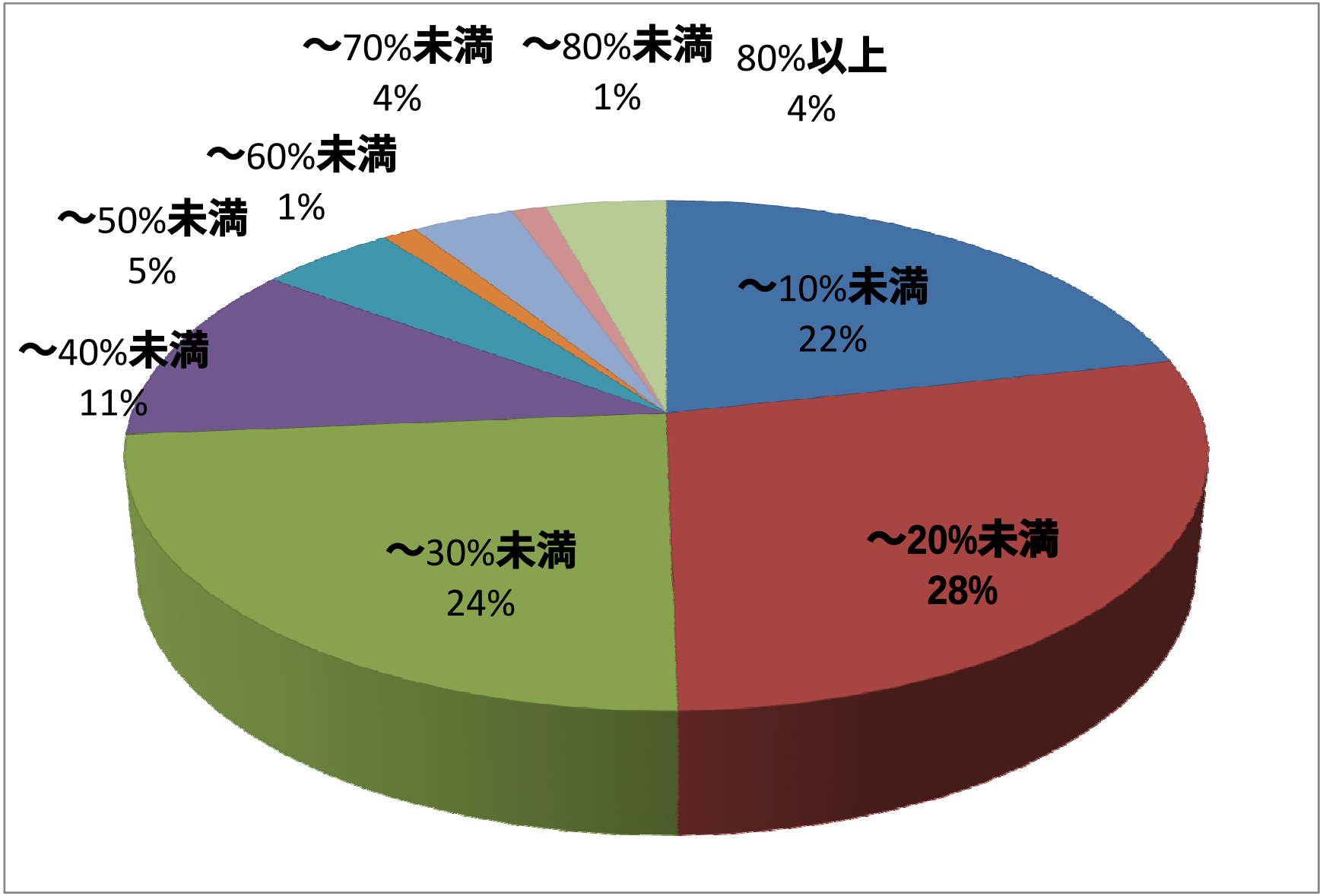
# 2－①　ジェネリック薬の採用方針



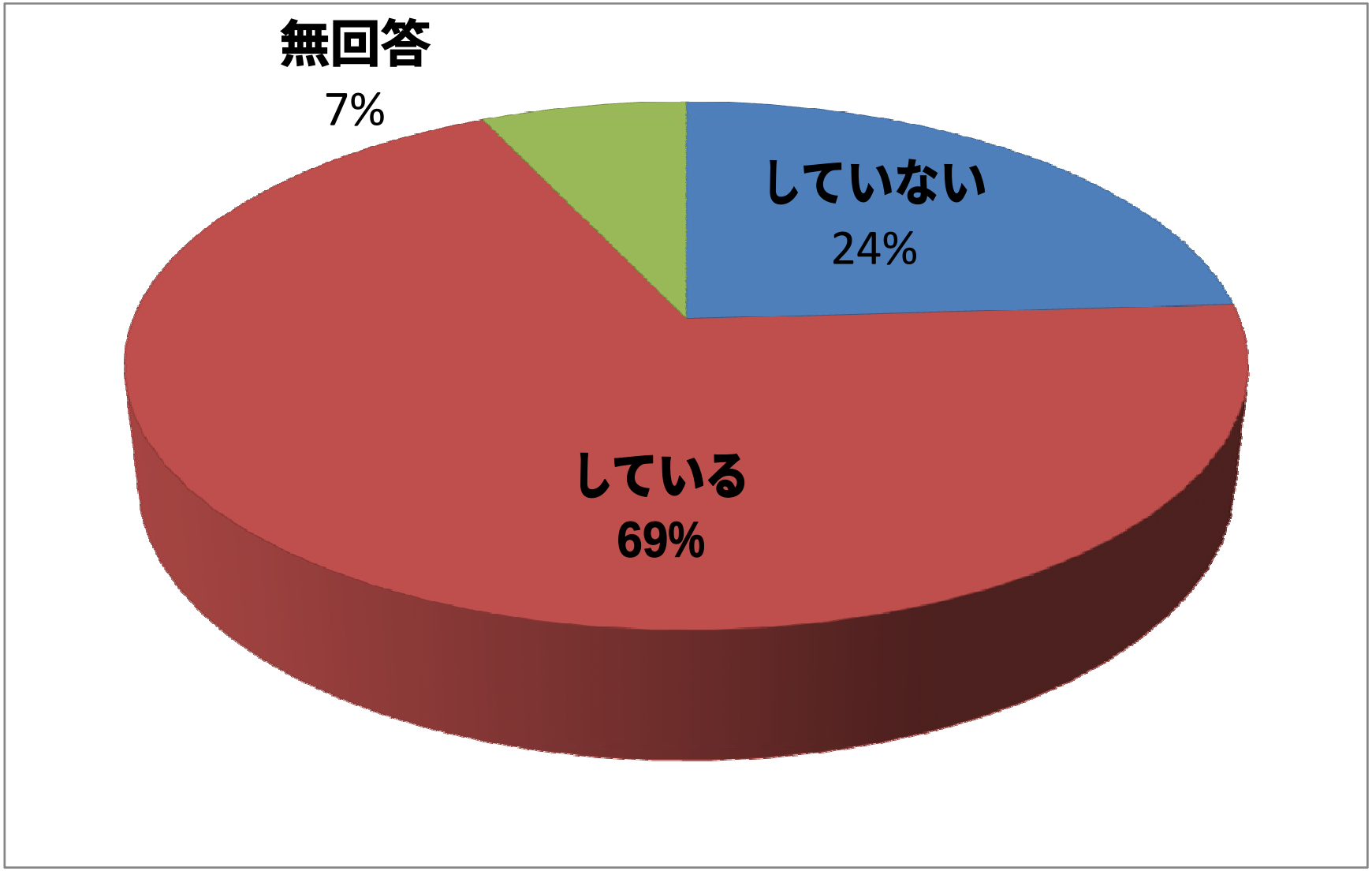
# 2－②　ジェネリック薬の採用率　　品目ベース



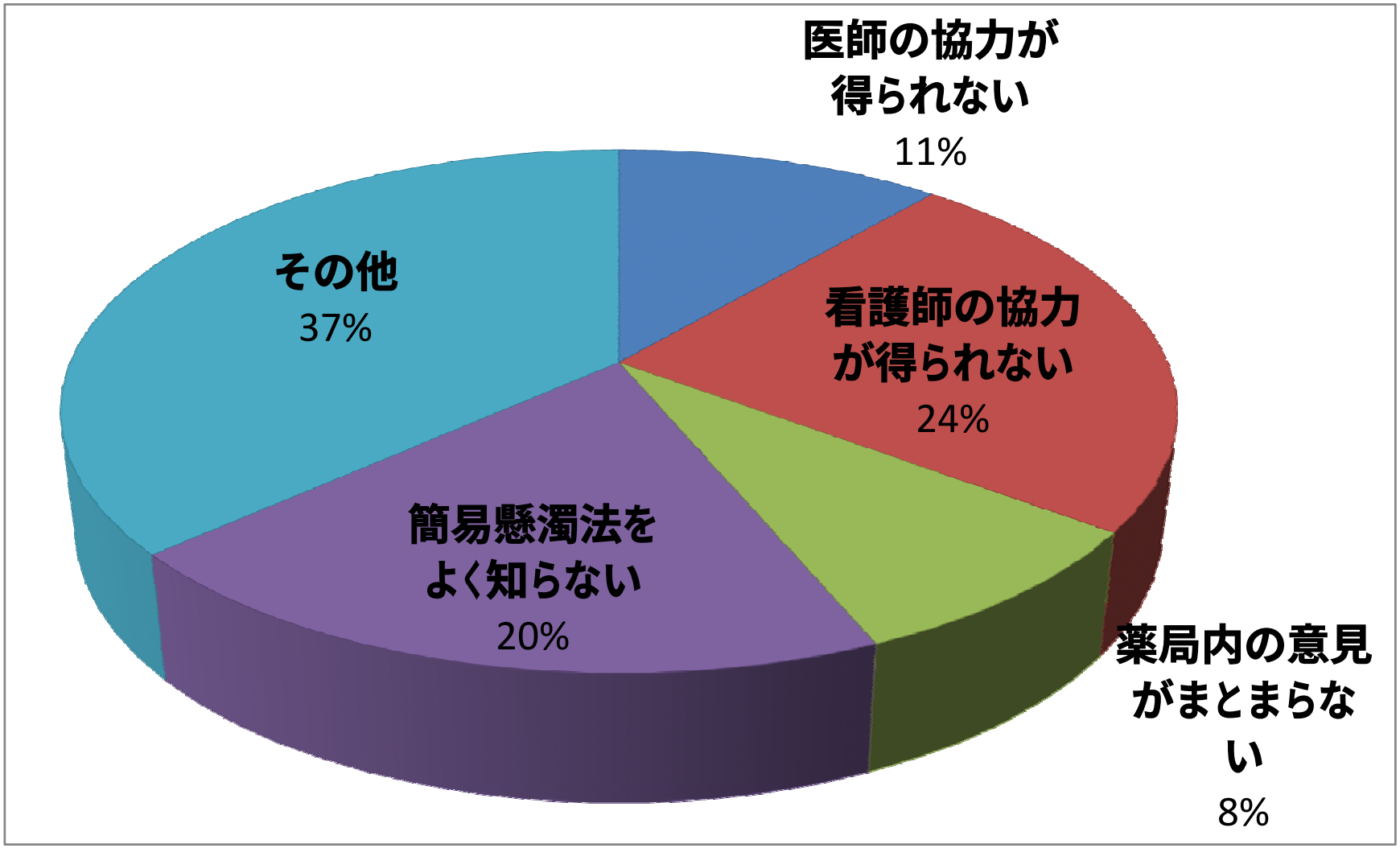
# 2－③　ジェネリック薬の採用率　　薬価ベース



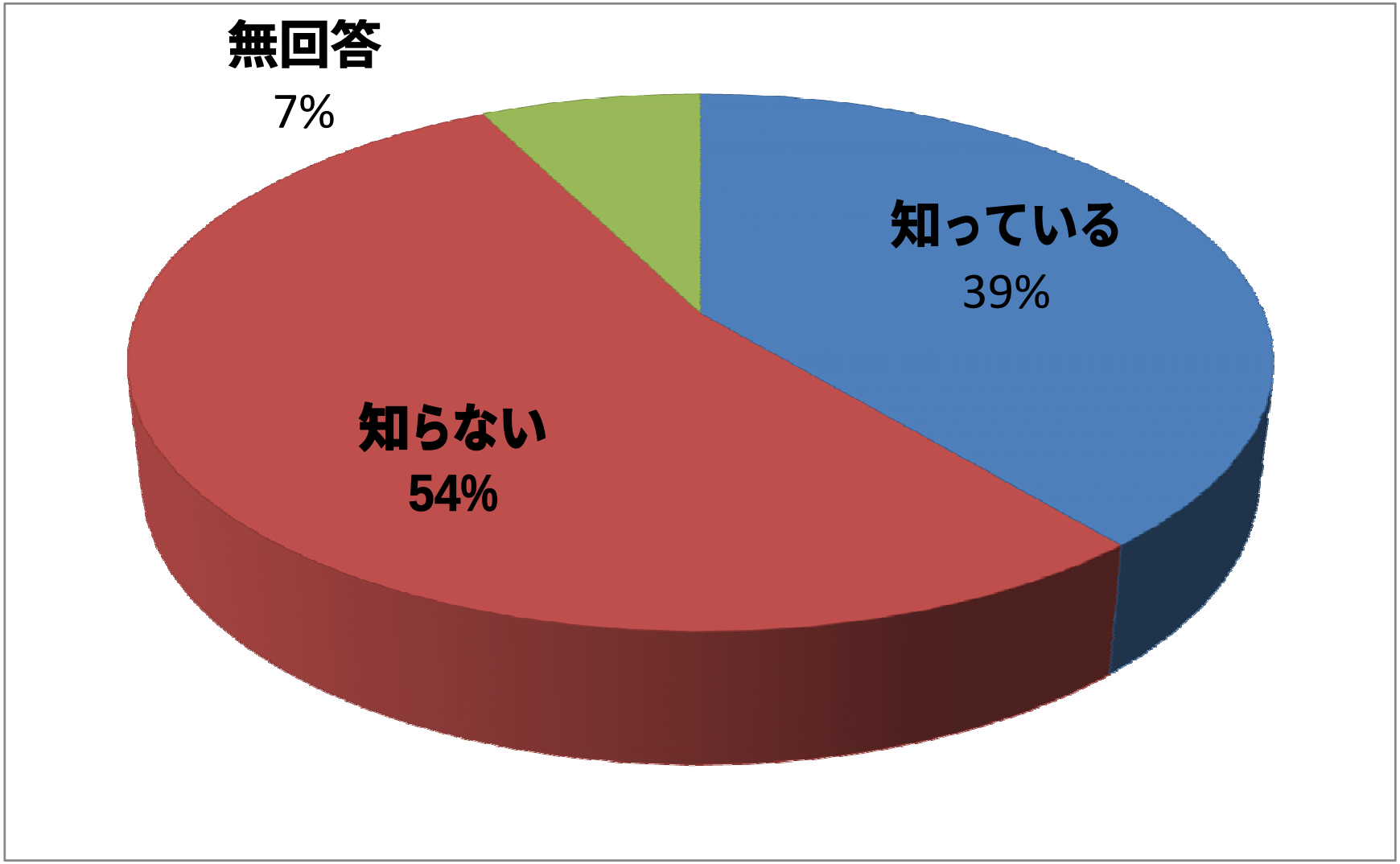
# 3－①　「簡易懸濁法」を導入していますか



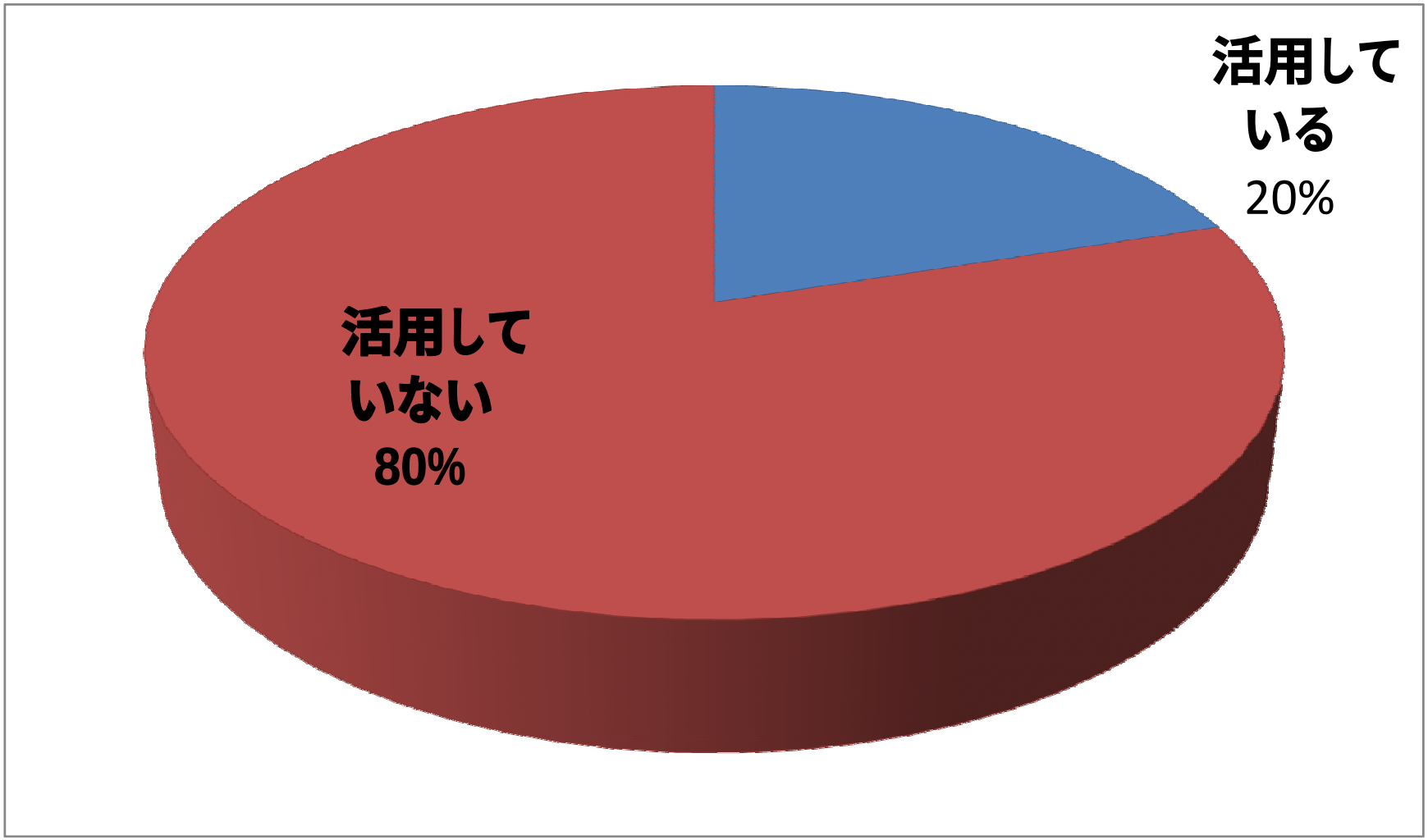
## 3－②　「していない」とお答えの施設は、その理由を選択して下さい　(複数回答)



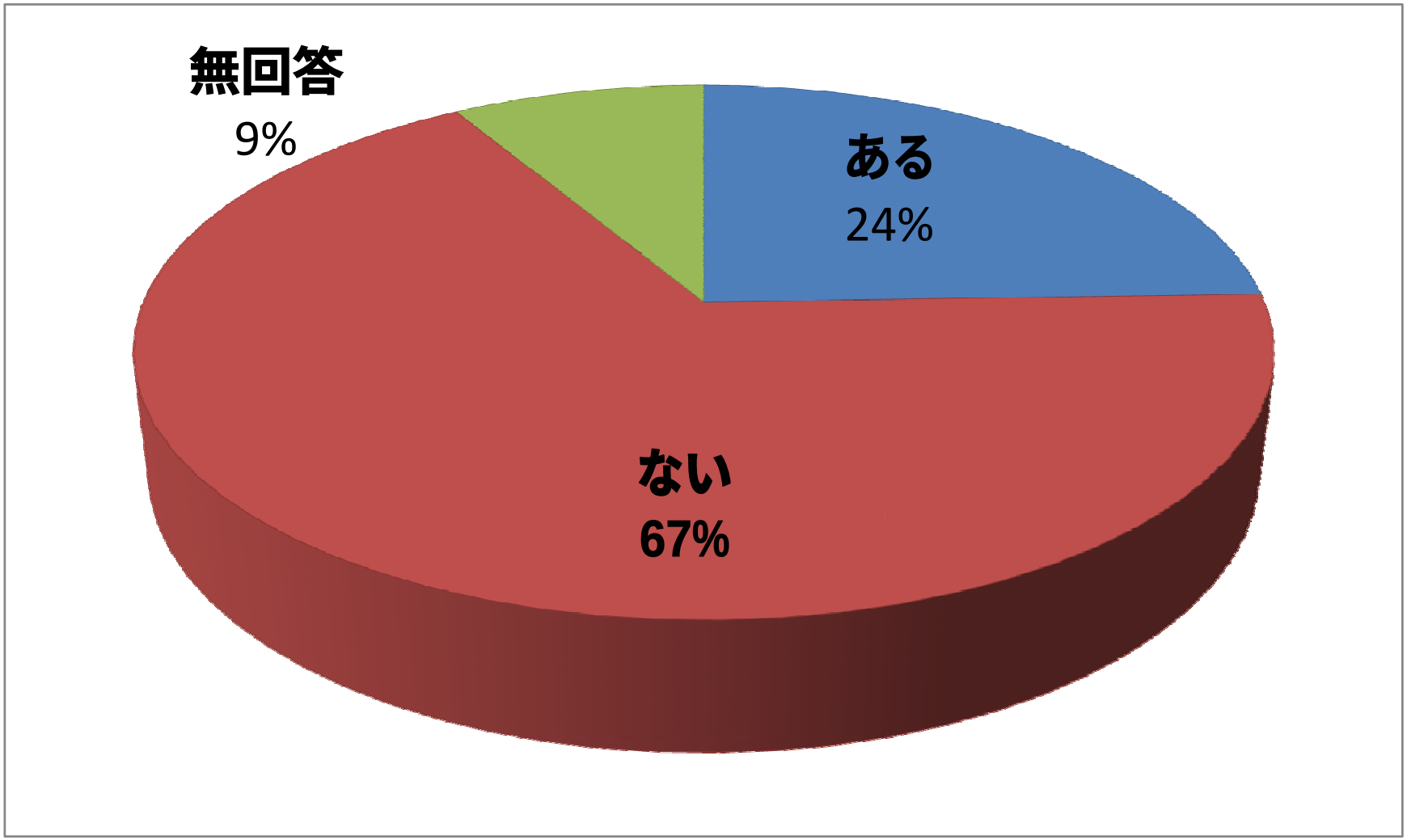
# 4－①　「Beers criteria日本版」をご存知ですか



## 4－②　「知っている」とお答えの施設では、
## 「Beers criteria日本版」を処方構築に活用していますか



## 5　緩和ケアに係わる医薬品の安全使用について、部門横断的な手順書はありますか



# 【考察】

1. 服用薬剤を最小限にするための努力を行っていると回答した施設は64%であった。

   入院時の内服薬の種類数と、入院6ヵ月後の内服薬種類数の推移を見ると、明らかに服用薬剤種類数は減少しており、服用薬剤を最小限にする努力が行われていることが裏付けられた。

2. ジェネリック薬を積極的に採用していると回答した施設は61%であった。

   ジェネリック薬の品目ベースでの採用率は、2割未満が27%と多く、次いで3割未満が23%であった。

   ジェネリック薬の使用推進については、更なる啓蒙活動を行っていく必要があると考えられる。

3. 簡易懸濁法を導入していると回答した施設は69%であった。

   しかし、導入していない施設での、その理由は「看護師の協力が得られない24%」「簡易懸濁法を よく知らない20%」が多く、高齢者への適切な薬剤投与法について、継続した検討を行っていく必要があることが示唆された。

4. 「Beers criteria日本版」を知らないと回答した施設は54%で、知っていると回答した施設においても、活用していないが80%であった。
高齢患者への適切な薬剤選択の推進には「Beers criteria日本版」は有用なツールといえるため、医師を含めた啓蒙活動を行っていく必要があると考えられる。

5. 緩和ケアに係わる部門横断的な手順書は「ない」が67%と多かった。
今後予想される緩和ケアを必要とする入院患者の増加に対応するため、手順書の整備は必須であり、多職種参加による緩和ケアに係わる医薬品の安全使用について議論していくことが必要と思われる。